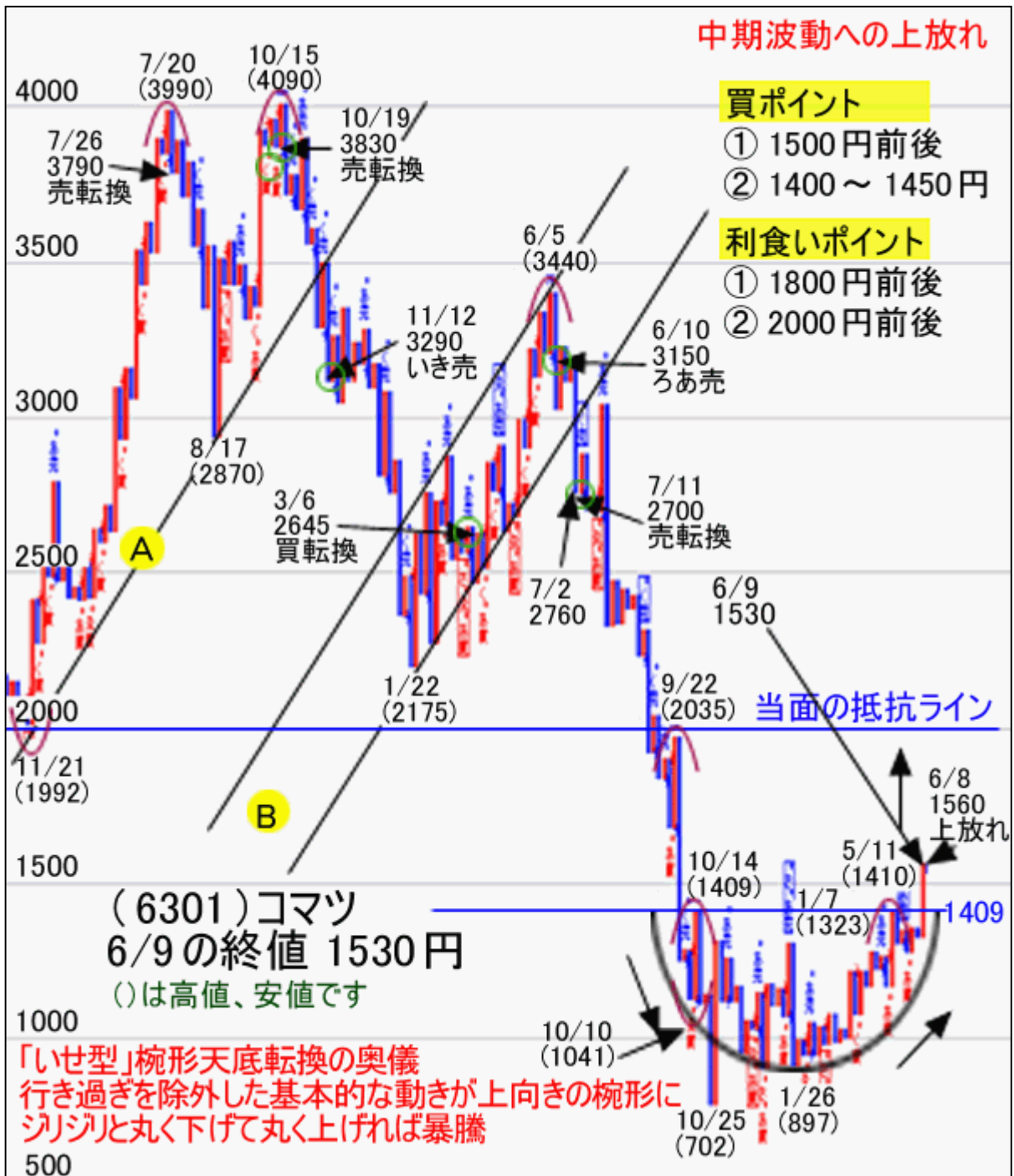


(6301) コマツ



## 新興国向け輸出の代表銘柄コマツが中期上昇波動へ ... 柴田罫線では「いし型」の上放れ ...

昨日、コマツ(6301)が前週末(6/5)比 88 円の 1560 円の大幅高となりました。ヤフーの株式ニュースでは、次のようなコメントとなっていました。

「買い気配スタートからの大幅高。野村では投資判断を「2」から「1」に格上げ、目標価格 1900 円としている。中国以外の新興国景気も底入れしてきており、新興国売上高の構成比率が高い同社は、その恩恵を享受できると評価している。また、モルガンでは投資判断を新規に「オーバーウェイト」で 1800 円目標に、業績回復のピジビリティやバリエーションなどの観点から、日立建機<6305>よりも魅力的としている」(6/8)

証券会社が株価を上げるための情報を出した時には目先は天井というケースがよくあるので飛びつき買いは危険ですが、このコマツは柴田罫線でみても上放れの形ですので、押し目があれば狙ってみたいところです。柴田罫線で過去 2 年間の推移を柴田法則の出現をみながら分析してみましょう。

### <天井からの暴落過程>

2006 年 11/21 の安値 1992 円からの上昇トレンドの中で、2007 年の 7/30 に 3990 円と史上最高値をつけて 7/26 に売転換が出現し、8/17 の 2870 円まで下落しました。ここから反発となって高値を試す動きとなり、10/15 に 4090 円と史上最高値更新となりました。しかし、10/19 には 3830 円で再び売転換が出現し下落となりました。この時は 2006 年 11/21 の 1992 円からの上昇トレンド(A)を 11/12 の終値 3290 円で切り(上昇トレンドの下値斜線を陰線の終値で切る いき売出現)、ここで 7/20 の 3990 円、10/15 の 4090 円をダブル天井に近い形が確定し、本格調整となっていました。この本格調整は 2008 年の 1/22 の 2175 円で当面の底打ちとなり、2500 円をはさんだもみあいのあと 3/6 に 2645 円で買転換出現となって戻りを試す動きとなって、上昇トレンド(A)に平行に追従する上昇トレンド(B)を形成しました。この上昇トレンド(B)の中で 6/5 に 3440 円の戻り高値をつけ 6/10 に 3150 円であ売が出て、少しもみあったあと 7/2 には 2760 円の陰線の終値となって上昇トレンド(B)を下に切りました。この下げ方は暴落を示す「いし型」となります。

柴田罫線では「いし型」とは暴落相場が急激に大幅に下げて、前の基道(上昇トレンドA)より鈍い角度(ここでは平行に近いが)で上げた基道(上昇トレンドB)の下値斜線を陰線で切ると暴落というものです。ここでは 2006 年 11/21 の 1992 円からの上昇トレンド(A)という暴落相場の中で 7/20 の 3990 円、10/15 の 4090 円を史上最高値でダブル天井のような形をつくり、下落となってこの上昇トレンド(A)を大きく切って 2008 年 1/22 の 2175 円まで下げました。ここから上昇トレンド(A)の角度よりやや鈍い角度で上昇するトレンド(B)となって、6/5 の 3440 円で戻り天井をつけ、7/2 には 2760 円でこの上昇トレンド(B)の下値斜線を切りました。いったん 3000 円水準まで戻すものの下落となって 10/25 には 702 円までの大暴落(6/5 の 3440 円からすると 3 ヶ月で 1/5 近い下げ)となりました。日経平均を引っ張る代表銘柄だけに、この暴落の型は同時に日経平均の暴落を暗示していたことにもなります。

### <大底からの反発で中期上昇波動へ>

6/5 の 3440 円の戻り高値から「いし型」の実現となって大暴落となり、10/10 に 1041 円でいったん止まって 10/14 の 1409 円まで反発するものの再度急落となって 10/25 の 702 円まで下げて底打ちとなりました。ここで 11/5 の 1320 円まで自律反発したもののじり下げとなって今年の 1/26 に 897 円(10/25 の 702 円に対する 2 番底)まで下げると、次はジリ高となって 5/11 に 1410 円まで上昇しました。この時の終値の形を時系列で見るとお椀の底のようになっています。前年の 10/14 の 1409 円が抵抗ラインになって、1 円高い 1410 円で止まり、いったん押し目を入れて昨日この 1410 円を一気に上にぬく 88 円の 1560 円となりました。この上放れは柴田罫線では「いせ型」(椀型天底転換)という暴騰を暗示する型となります。つまり、下げ過ぎを除外した基本的な動きがお椀の底(又は鍋底ともいう)の形のように、ジリジリと丸く下げて、ジリジリと丸く上げて上値抵抗ラインをぬけると暴騰というものです。昨年 10/14 の 1409 円を上値に 10/25 の 702 円を行き過ぎ(下げすぎ)を除くと、1/26 の 897 円までジリジリと下げ、次にこの 897 円から 5/11 の 1410 円までジリジリと上げて、その後この 1410 円の関門をぬけて昨日上放れとなりました。

目先は日経平均がいったん調整する可能性が高いところですので、1500 円以下の押し目を待つところです。1400 円が強力な下値抵抗ラインとなりますので、そこまで下げることを前提に 2~3 回に分けて買い下がるところです。余裕のある人で押し目がないと考える人は現水準から 50 円きざみの押し目買いとなります。2000 円水準が当面の上値抵抗ゾーンとなります。

昨日、書き忘れましたが昨日の騰落レシオは 138.6%と 4/17 の 134.74%を更新する高水準となっておりピークとなる可能性高く、ふつう日経平均は 2~3 日遅れてピークとなる経験則もありますので今週は要注意となります。